

卒業を迎えて



河本友結、曾根さやか

暖かい日の光が降り注ぎ、春の訪れを感じた3月に、第45期生4名は2年間の学習を終え、国立療養所長島愛生園附属看護学校を卒業します。

親元を離れ初めての環境に戸惑い、またこれから始まる学校生活への期待と不安を胸に入学をしたことを、つい先日のように思い出されます。入学後はハンセン病について、様々な授業や入所者様との関わりから、入所者の皆様の歴史を知り、衝撃を受けたと同時に、何もできない自分の未熟さを痛感しました。そして、倫理観を養うことや、自分たちに何ができるのか、思いをはせながらこの2年間を過ごすことの重要性和責任を感じることができました。

また、老年看護学実習では自ら言葉で訴えられない患者さまを受持ちました。私は患者さまが訴えている小さな反応を理解しようとせず、援助をおこなっていました。しかし、指導者や教官の助言により、私がおこなっている援助は、自分中心の看護であることに気がつきました。そして、「対象を理解することとは」「対象に合わせた援助とは」と、考えながら関わることこそが、尊厳ある看護につながるのだと、学ぶことができました。



私たち第45期生は4人と少ない人数でしたが、深い絆と団結力で乗り越えていくことができました。

4月からはそれぞれ新しい場所で、新たな一歩を踏み出します。それぞれの道に進み、看護師として働くことに不安がいっぱいです。しかしこの長島愛生園附属看護学校で学んだことに誇りを持ち、自分の目指す看護を行っていきたいと思います。

(卒業式後、納骨堂にご挨拶に行きました)

